

## 【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	新宿区家庭教育支援チーム (呼称: ママ解放区プロジェクト)  URL: <a href="http://bloomingmom.jp/mom-project">http://bloomingmom.jp/mom-project</a>
活動開始年度	2017 年度
活動拠点	新宿区
活動範囲	主に新宿区及び八王子市
活動財源	<input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名 ) <input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名 ) <input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名 ) <input type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input checked="" type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ( )
組織体制	<u>10 人</u> 特別支援教育支援員・子育て支援アドバイザー・育児経験者・ 母親支援コミュニティ代表 他
具体的な活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 講座型 <input checked="" type="checkbox"/> 拠点型 <input type="checkbox"/> 訪問型 <input type="checkbox"/> 総合型 <input type="checkbox"/> その他( )
	<p><b>【活動内容】</b></p> <p>育児中の母親の「気持ち・時間・場所」からの解放を目的としたプロジェクトとして、社会全体で支え合うコミュニティを形成。</p> <p>児童館等に馴染めない、孤育てに陥っている、不安を抱えている……。そんな乳幼児を持つ母親に対し、自己肯定感が低下する思いを解消し、心の拠り所となるような交流の場や空間を提供することで、地域のコミュニティの中で子育てや家庭教育を支援するため、以下の活動に取り組む。</p> <p>また、「ママ解放区」マークの推進を行い、社会全体で子育て・家庭教育を支援する機運の醸成を図ることを目的とし、母親が母親を支えるという構図から、母親とその周りにいる人(パートナー・祖父母・親戚など)や、地域・社会がお互いに支え合える活動にも取り組む。</p>

## 1. 母親交流会

月1回開催する「ママ解放区 \* ツキイチ交流会」では、新宿区内の地域センターに集まり、会話をする時間を過ごす。

子連れでも参加できるように工夫をし、育児中の不安や悩みを打ち明け、共感してもらうことや先輩ママからのアドバイスを聞くことで、ストレスや不安の軽減を図ることを目的として活動している。



▲「ママ解放区 \* ツキイチ交流会」の様子(母親だけでなく、時に学生、父親の参加もある。)

## 2. ママ解放区「ファシリテーター養成講座」

身近にいる母親の気持ちに寄り添い、お互いを尊重しながら、育児の大変さ・不安や悩みを軽減させ、楽しさを増やすような育児環境を整えることを目的とする。

また、母親だけでなく、母親の周りにはいる家族・職場・企業・学校など、関わる全ての人たちに育児をしている母親の大変さや、睡眠不足、子育てに対するプレッシャー(実の両親・義理の両親の子育てに対する考え方などを配慮している現状)、発達障害の心配、発育に関しての悩みなどの理解を促す内容をワークショップ形式で学ぶ。

さらに、母親自身も周囲に誤解を与えてしまうような態度では、社会との軋轢(あつれき)や、不理解が生じる原因にもなるため、マナーや公共の場での躰・態度のあり方についても考察する。

なお、この講座は、子育ての現状や対処法などの知識や経験を通じて、孤育てや心理的な変化を学び、その気持ちを共有する場を進行する人を養成する講座であり、母親を取り巻く環境の理解・進行のノウハウ・講座開講の仕方・コミュニケーション術なども学ぶ内容としている。

### <受講対象>

- ・乳幼児、小・中・高生の母親
- ・母親支援をしたい個人・団体・企業
- ・プレママ、プレパパ、学生、祖父母
- ・ボランティア活動に興味のある方や、社会貢献に関心のある方 など

### 3. ママ解放区マークの推進

パソコン・スマートフォン・手帳・カバンなどに貼ることで、サポーターであることを示す。

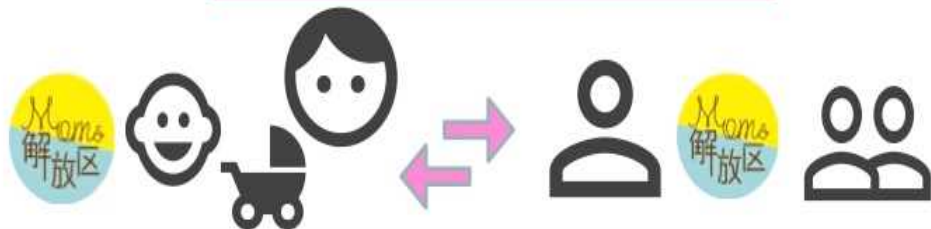
育児中のママ・パパだけでなく、おじいちゃん・おばあちゃん・学生さん・プレパパ・プレママなど、あらゆる世代の方に利用を目的とし、飲食店・企業・公共交通機関や行政などでの理解を示すマークとしての利用を促進する。

それぞれの願う「ママ解放区」にとってのコミュニケーションツールとして活用することも目指す。

もし、目に入るところに貼っていないとしても、持っていることが自身にとっての意思表示の表れとして、普及させたい。

このような相手を思いやるコミュニケーションが生まれ、「大変だよね」「頑張ってるわね」という声かけをしてもらえるだけでも、閉塞的になりがちな母親の気持ちを和らげ、日々の育児疲れが軽減されることが多いことから、日本中で育児に奮闘するママと、その周りの人たちとの架け橋になるマークとして普及を目指していく。

#### ママ解放区マークの使用方法



ママが身につけている場合	赤ちゃんと一緒に居ない方の場合 (男性・学生・既婚・未婚の方など)
ママが身につけている場合は、温かく見守ってほしい・手助けして欲しいというメッセージがほとんどです。 駅などで、階段を登り降りするときにベビーカーと一緒に運んでもらえたり、飲食店でトイレに行きたいときなどの数分間に赤ちゃんを抱っこしてもらったりなど、とっさのサポートをしてほしい時や、声をかける勇気、サポートを受ける素直な気持ちを与えてくれます。 例) エレベーターに乗りたい・トイレに行きたい・話を(気が済むまで)聞いてほしい	赤ちゃんと一緒に居ない方が身につけている場合は、「ママ解放区のサポーターだから気軽に声をかけてね!」というメッセージだったり、「荷物運びましょうか?」などの声かけが自然にできるような後押しをしてくれるマークとして役割を發揮します。 声をかける勇気がなくても、ママを応援しているよ。というメッセージにも! 例) 「大丈夫ですよ。」「お先にどうぞ。」「どうしますか?」「ママも泣きたいよね。」など

<p><b>活動の成果</b></p>	<p>○近所の児童館や、ママ友作りがうまくいかなかったために、孤立していた母親が、この交流会に参加することで安心して話ができる居場所にすることができた。</p> <p>○母親だけでなく、学生・父親・独身の女性や男性にも共感してもらい、ママ解放区マークを積極的に持つことで、声かけやサポートをする気持ちが生まれた。</p> <p>○一人目の育児で参加していた母親が、二人目を妊娠・出産を機に、再び「ママ解放区＊ツキイチ交流会」に参加する傾向があり、継続して行うことで戻る場所があるという安心感を与えることができる。</p>
<p><b>活動において苦勞した点や課題</b></p>	<p>○ボランティアでの活動のため、協力してくれる人員確保が課題。特に母親の育休復帰や、家庭の事情による転勤があるため、スタッフとして長く担当することが困難である。</p> <p>○活動の認知を広めるにあたり、周知・広告をしたいが予算がないために、地道な活動を行いながら、子育て支援などが必要とされている母親に届けることが課題である。</p>
<p><b>今後の活動目標</b></p>	<p>○母親交流会に関して、妊娠時からこのような居場所があるということを伝えることにより、産後に陥りがちな孤独感・母親としての自信を失うことのないようにするために情報提供を行っていく。</p> <p>○引き続き、ママ解放区マークの認知を高め、母親だけでなく、父親や周りの人にも理解してもらえるような活動にしていく。</p>
<p><b>問合せ先</b></p>	<p>(部署・氏名等)ママ解放区プロジェクト事務局 (E-mail)bloomom555@gmail.com</p>